



【小学1年生・2年生】

特 選 さあいくよぼくのあおぐつどこまでも

若葉小学校1年 志萱 拳誠

(評) 「あおぐつ」がとても心にのこりました。新しい靴ですか。それともいつもいつしよに行動している靴ですか。どこでも遠くまででも行ける靴だから、いつもいつしよの友だちのような靴ですね。大事にしてね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 あさがきたおきておきてアラームだ

城北小学校2年 佐伯 瑠夏

(評) 「おきておきて」のくりかえしが朝のアラームの意地悪な起こし方や朝のドタバタと忙しいようすが手にとるように伝わります。目覚まし時計をアラームとカタカナにしたのも楽しいです。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 でかばんでいちいとしてじぶんすごい

金城小学校2年 王 友葉

(評) いきなりでくる「でかばん」の言葉におどろきました。一位をとって自分をほめる、それにもおどろきました。本当におもしろく楽しい句です。いつもみんなを笑わせているのでしょね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 はがぬけたちよつとかおだすおとなのは

金城小学校1年 西 慧士郎

(評) うまく表現できました。かわいい大人の歯が、ちよつとのぞいてる状態が、目に見えるようです。きちんと十七音でおさまっています。お見事です。この調子で新しい句をつくってください。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 いつものまにゆかにちいさなおとしあな

金城小学校2年 遠藤 妃葉

(評) 「おとしあな」さて、これは何を表しているのでしょうか。知らない間に、そして「ちいさなおとしあな」はひみつのあなたと思ったのですね。もっと大きい方がいいのですか。知らない間だから宇宙人が作ったのかな。いろいろな想像ができておもしろい句です。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 ゆきだるまどんとけてなくなった

金城小学校2年 北川 稀愛

(評) 雪がふり、やっと作られたゆきだるま。でもお日様がでてくると暖かくなり、どんどんとけてきた。しかたないと思っても、せっかくカッコよくできた雪だるまが、かつこ悪くなつていくのを見て悲しくなる様子が、うまく表せています。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 やさしきでみんなもわらういいクラス

城西小学校2年 一圓 将隆

(評) みんながやさしくいつも笑ってるクラス、すてきなクラスですね。それに気づいたあなたはもっとすばらしい。毎日普通にすごすことの素晴らしさには、なかなか気づきません。普通のくらしの中のすばらしい句をいっぱい作ってくださいね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 えんそくはでん車にのってレッツゴー

城北小学校2年 藤原 清奈

(評) 「レッツゴー」カタカナのこの一言で電車にのって行く遠足の楽しさが想像できます。お弁当もみんな食べておいしかったことでしょう。毎日楽しいことを十七文字でたくさん作ってくださいね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 あいさつはげんきよくやるかおあげて

城北小学校2年 八若 慎乃輔

(評) この句をよんだだけで、元気になります。あたりまえのことをすなおによんでいます。きれいに十七音におさまっています。「かおあげて」をさいごにおさめているのは最高のセンスです。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 ゆきだるまさんたさんのおとがする

佐和山小学校1年 徳邑 健斗

(評) ゆきだるまの上に雪が降ってきています。そして「さんたさんの」乗ったそりの音がシャンシャンと聞こえてきます。ホワイトクリスマススのプレゼントは何をもらいましたか。「サンタさん」と書いた方がよかったです。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 やきゅうのしあいはいっぱいうってやる

城西小学校1年 北村 碧葉

(評) 君の決意のつまった句です。試合は勝ちましたか。何本打てましたか。楽しかったですね。全体で十七音になつていますが五七五になつていないのが残念でした。でも上手にできました。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 あきになり木のかたちかたがぞうみだい

稲枝東小学校1年 西川 香音

(評) 「ぞう」が出てきました。想像力豊かです。「木のかたち(が)ぞうみだい」の「が」をなくすと十七音ちようどになります。「が」をなくしたところは「文字空けておきます。そうすると「ぞう」がもつと引き立ちます。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 ドッチビーボールがおちるふわふわ

旭森小学校1年 高丘 実莉

(評) 「ドッチビーボール」は聞いたことがないので検索しました。そして「ふわふわ」の意味もわかりました。新しいスポーツが生まれ、新しい句が生まれるのがとてもうれしかったです。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 こおろぎがおつきみだよとおしえてる

旭森小学校2年 白瀧 惟人

(評) 秋になると、こおろぎやたくさんさんの虫がやかましいほど鳴きだします。「満月だよ おだんご食べたか」と教えてくれます。秋の風景が目の前に浮かびます。きれいな句ができました。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 なつよりのいろんなむしがひそんでる

金城小学校2年 堀 凜

(評) 夏休みの夜、みんなで公園に虫取りに行つたときの句ですか。「ひそんでる」からせみもしくだつたのですね。カブトムシもいましたか。虫に気づかれなように、黙って虫をとつたのですね。楽しそうです。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 五・七・五はじめてやってできました

金城小学校1年 朝西 春友

(評) たいへんうれしいです。川柳に興味をもつてくれたことが、それは日本語のおもしろさに気づいたことです。川柳は自分の気持ち、たつた十七音であらわすことができるゲームです。たくさん作ってくださいね。

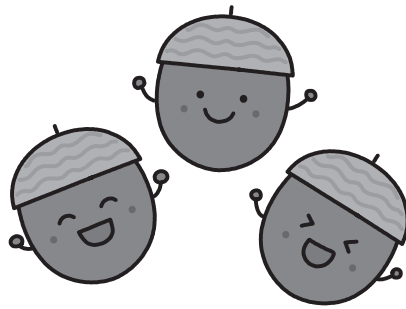
(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 あきみつけどんぐりぼうしかぜにのる

旭森小学校1年 奥村 心紅

(評) さわやかな秋あきが感じかんられます。涼すずしくなりやつと外そとで遊あそべるようになりまし
た。どんぐりをきれいにならべ、どんぐりぼうしの部分ぶぶんを水みずにつけて冬ふゆをこす
と春はるに芽めがでてきます。そんな遊あそびもしてみてください。その楽たのしさを川柳せんりゅうに
してみてください。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)



佳作 こおろぎはなきごえきれいなんでかな

旭森小学校2年 鹿田 実乃梨

佳作 うつくしいふゆのほしぞらてんたかし

旭森小学校2年 水谷 悠人

佳作 カナヘビのしっぽはぷにぷにほそながい

稲枝西小学校1年 古川 陽登

佳作 おかあさんしゅくだいやっておねがいだ

稲枝東小学校1年 長田 湊大

佳作 うんどう会毎朝れんしゅうひみつのね

稲枝東小学校2年 松木 瑛汰

佳作 かえるくんお手紙書くよがまくんに

稲枝東小学校2年 高田 修吾

佳作 きゅう食の牛にゅうのんでせよのびろ

稲枝東小学校2年 堀口 珠輝

佳作 いつのまにばったが一ぴきふえている

金城小学校1年 山元 悠暉

佳作 りんごあめパリパリシヤリシヤリおとがする

金城小学校1年 稲垣 凜斗

佳作 あめのあとにじをはっけんいきぶん

金城小学校1年 田附 優菜

佳作 よじかんめわくわくするよこっぺパン

金城小学校2年 小森 ほまれ

佳作 あめのひにであうとうれしかたつむり

金城小学校2年 品川 航佑

佳作 サンタさんがみをかくなまってるね

城西小学校1年 高橋 明日香

佳作 いつのまにいえにはながさいていた

城西小学校1年 茂 采佳

佳作 たいいくでなわとび十かいとべたんだ

城陽小学校2年 久富 紬

佳作 だいすきなバレエをずっとつづけたい

城西小学校1年 玉木 万葉

佳作 おにごっこビュンビュンはしるたのしいな

旭森小学校1年 古谷 旭

入 選 かくれんぼみんなとあそびぼくがかち

旭森小学校1年 匿 名

入 選 おわらいがおもしろすぎておわらい

稲枝東小学校1年 大野 瑠李

入 選 ろくろくびおばけはこわいでもうそだ

稲枝東小学校2年 松井 湊十

入 選 さむくてもはしっていたらあつくなる

金城小学校1年 前川 琉之介

入 選 たんぼみちかまきりばったつかまえる

金城小学校1年 木下 そら

入 選 ばらがすきわたしもすきよきれいだな

金城小学校1年 遠藤 さら

入 選 リレーしてみんなでひとつがんばろう

金城小学校1年 山下 咲良

入 選 こっそりとどんぐりつまみポケットに

金城小学校2年 佐野 里歩

入 選 おにごっこおにでおいかけタッチする

金城小学校2年 尾本 暖太

入 選 しゅくだいいつもがんばるえんぴつで

金城小学校2年 栗本 紗風

入 選 ドラエモンどこでもどあをだしてくれ

金城小学校2年 山田 侑史

入 選 ふわふわのしっぽふりふりあそぶねこ

金城小学校2年 成田 風

入選 さつまいもぬこうとしたらずっこけた

金城小学校2年 宮嶋 悠汰

入選 ももいろのはるのさくらはきれいだな

金城小学校2年 水嶋 美南

入選 あきになりゆきがたのしみまだまだだ

金城小学校2年 東田 吾郎

入選 びわこはねきれいなしがいっぱいだ

金城小学校2年 大久保 七美

入選 あきのあさおちばをめぐってむしがいる

佐和山小学校1年 曾山 翔太

入選 あきによるきれいなほしがかがやいた

城西小学校1年 宮下 加帆

入選 さつまいももぐもぐたべておいしいな

城西小学校1年 中 芽依子

入選 かぶとむしひとつのつのがめじるしだ

城西小学校1年 寺村 早織

入選 しゅくだいはあとにしないで今すぐだ

城北小学校2年 奥原 史帆

入選 よるごはんいただきまますと手をあわす

城北小学校2年 向江村 昇大

入選 やりたいたなよるにいきたいむしつかみ

城陽小学校2年 黒川 一颯

入選 なつやすみいぬかみがわでつりをする

城陽小学校2年 木下 颯斗

入 選 おてがみをよんだらえがおでてきたよ

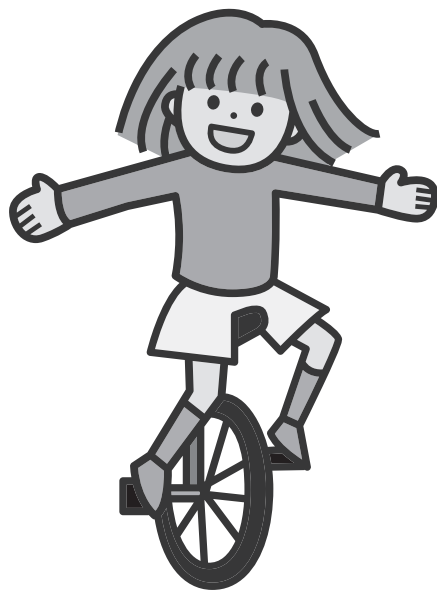
城陽小学校2年 稲本 千代

入 選 いちりんしゃどんぐりをみたたのしかった

城陽小学校2年 山本 彩乃

入 選 ともだちといっぱいあそんだあつたまる

城西小学校1年 星野 結



【小学3年生・4年生】

特 選 まんげつはでんきのようにあかるいな

城西小学校3年 大西 結梨

(評) 散歩をしてもまん月の夜はなぜかうきうきします。この句をよんで、「でんきのように明るい」からだと分かりました。まん月への思いが、「でんきのように」の言葉でバツとかがやき、とつても明るいまん月が見えます。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

特 選 おさがりの体そう服に土のシミ

佐和山小学校4年 橋本 昌哉

(評) お兄さんかお姉さんが使われた体そう服をゆづってもらい、「土のシミ」を見つけた。ゆづった人のがんばった後が残る体そう服、下五の「土のシミ」がよかったです。おさがりを着るあなたもステキですよ。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

特 選 おおそうじほこりまみれでくしゃみでる

城北小学校4年 鵜飼 詩依

(評) おおせいでがんばった大そうじ。ほこりまみれでくしゃみ出る。くしゃみが出るという動作を入れることにより、その場のようすがはっきり分かります。明るいよい句になります。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

準特選 こうようにけしきがかわりあきのかぜ

城西小学校4年 中島 廉

(評) 暑い夏がつづき、もう秋はこないのかと思うくらいでしたね。野や山が少しずつ色づき、こうように景色が変わっていくのを知りました。そこに秋の風がふいてきた。秋の風でホツとする一枚の絵になりました。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

準特選 運動会今年は声出し応援だ

城東小学校3年 片瀬 蒼祐

(評) 新型コロナウイルスで、人とのふれあいや声を出せない日が何年も続きました。色々なことを乗り越え、「今年は声出し応援だ」の中に、運動会ができるよろこびや、皆さんと仲良く声を出せるうれしさが伝わってきます。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

準特選 うんどうかいはっぴをきてねおどったよ

城陽小学校3年 大倉 晴翔

(評) みんなとおどった運動会。「はっぴをきてね」の言葉で楽しいと言わなくても、はっぴを着てうれしい気持ちや、楽しくおどっているようすが分かります。とてもよい句になりました。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

佳 作 スポーツをがんばっているひとわたし

稲枝東小学校3年 秀島 汐奈

佳 作 城西はこだまがひびく学校だ

城西小学校4年 谷垣内 一花

佳 作 昼休み遊んですぐにチャイムなる

城北小学校4年 大橋 琉翔

佳 作 歯の金具もちの味より気になるよ

城南小学校3年 前田 茉帆侶

佳 作 散歩中キツネとぼったりぎょう天だ

佐和山小学校3年 大前 香穂

佳 作 おべんとうおにぎりふたつエビフライ

稲枝西小学校4年 田口 純鈴

入 選 バレーボールみんなでつないだボールだよ

稲枝東小学校3年 鈴木 結菜

入 選 おみそしるごはんにいれるとおいしいよ

稲枝東小学校3年 木村 理乃

入 選 かぞくいるまいにちつづくねがってる

城陽小学校4年 成宮 湊音

入 選 ポイスてを見つけてひろうかなしいな

金城小学校3年 尾本 愛理

入 選 山の子で協力し合いやりとげる

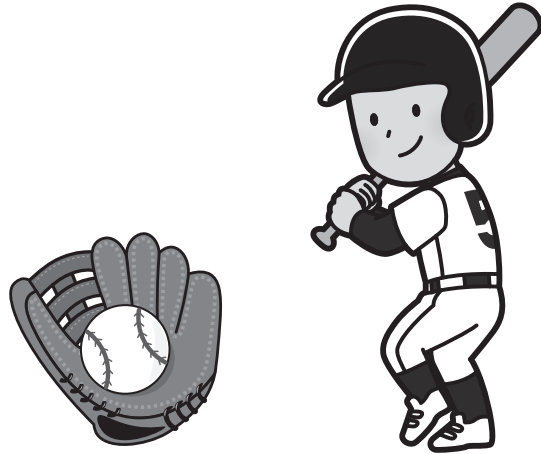
城西小学校4年 高畑 文乃

入 選 おかあさんあたまがいいなすごいなあ

稲枝東小学校3年 奥村 心士朗

入 選 野 球 して 決 勝 し ん し ゅ つ 勝 ち た い な

平田小学校3年 櫻井 聖大



【小学5年生・6年生】

特選 ラストランバトンをつなぎ夢つなぐ

城東小学校6年 松尾 泰慈

(評) リレー競争の最終走者になって、思い通りの走りができてバトンがつながったのでしよう。次の競争でもチームの着順や所要時間で勝つ夢を持っているので「つなぎ」「つなぐ」の繰り返し表現が印象に残りました。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

特選 愛犬に見つめられると言いなりだ

佐和山小学校5年 大前 さくら

(評) 飼っている犬との関係で、散歩などのしたいことを動作や表情で通じ合える仲なのでしよう。しかも犬の望み通りにしていることに喜びを感じているのがわかります。ただし甘やかし過ぎに注意です。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

特選 にっぽんの上げていきたい自給率

稲枝東小学校5年 赤田 悠真

(評) 日本の自給率は食料やエネルギーなどを外国からの輸入に大きく依存して低い水準です。江戸時代には鎖国で自給自足していたのに、句に同感です。日常を詠むのとは違い、社会の有様が気になって詠んだ句です。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 ここ一番強い自分で勝負する

高宮小学校6年 堀田 悠介

(評) ただ一回だけの勝負をするようで、何の勝負かはわからない。将棋のように頭を使うのか、相撲などの体を使う勝負なのかは別にしても自信満々の様子です。来年の文芸作品に勝負強い作品の応募を待っています。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 夕ぐれに少しさみしい秋の風

城東小学校5年 横山 美羽

(評) 秋の夕ぐれの風に対して感じた「少しさみしい」と表現したことに注目させられました。単にさみしいでは気象状況に対しての思いであり、他にも何かを感じたのだろうかと思像がふくらみました。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 お祭りでみんなで作ったラムネ飲み

鳥居本小学校6年 榊原 都和

(評) コロナ感染症が広がっている時は全国のお祭りも休止や縮小されました。今年の春に行動制限がなくなりました。今年ならではの「みんなで」一緒に作った喜びの句です。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

佳 作 流れ星私の夢も叶えてね

平田小学校5年 大橋 浩美

佳 作 運動会友情つなぐバトンパス

城西小学校6年 竹内 諒

佳 作 赤もみじ子どもが拾うたからもの

城東小学校5年 中川 新太

佳 作 がんばれのその一言で力わく

城東小学校5年 片瀬 実優

佳 作 音楽会ピアノドキドキひけるかな

城陽小学校5年 大西 結心

佳 作 かわいいな寝ても起きてぬいぐるみ

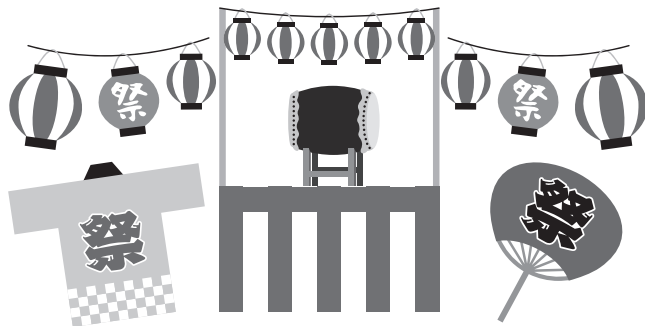
若葉小学校5年 志萱 めばえ

佳 作 ゆかたきて今年も食べるいちごあめ

城南小学校6年 山口 夢來

佳 作 染み渡る疲れた体にお味噌汁

稲枝東小学校6年 林 忠勝



入 選 焼きいもはほくほくとしてまっ黄色

城東小学校5年 栗田 仁香

入 選 どうしよう服を借りたらどろまみれ

城東小学校5年 田部 莉汐

入 選 ノート見る真っ白の所見つけたよ

城北小学校6年 松本 理咲

入 選 宿題はこたつですると眠くなる

城北小学校6年 金澤 彩

入 選 六年生リーダーだから大変だ

城北小学校6年 磯谷 和花

入 選 栗拾い家族みんなでとったるぞ

平田小学校6年 山田 望夢

入 選 秋の旬我が家特製栗ご飯

稲枝東小学校6年 山内 彩音惟

入 選 タコ焼きが口の中で暴れてる

稲枝東小学校6年 松家 風

入 選 好きななじいちゃん食べたお刺身

稲枝東小学校6年 勝城 菜生

入 選 好きな曲すぐに変わるんなあぜなせ

城東小学校5年 石田 風

入 選 おかあさんかおをあらうと別人だ

城東小学校5年 伊藤 優月

入 選 よぞらみてぴかぴかほしがわらってる

旭森小学校5年 津田 佳璃

【中学生】

特 選 山の中ぼつぼつ見える赤帽子

稲枝中学校1年 黒木 優衣

(評) 緑の山の中に赤い帽子がぼつぼつ見える。見えては消えて、消えては見えて、とても気になる。そして、見えていない時には探そうとしている自分に気が付く。かわいい赤い帽子の誰かはキノコかもしれない。緑の中の赤い帽子、謎めいた物語性がとても楽しい。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

特 選 筆箱の中の消しゴム見つからない

鳥居本中学校2年 喜田 惇温

(評) 自分でも読めないような字を書いたときは消しゴムがいる。でも、筆箱の中がない。ないというようなことはないのです。探しながらもアカンと思つたとき、ポトンと机から消しゴムが落ちる。ちよつと焦つた感じがうまく表現できている。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

特 選 志望校工業系だが理系嫌い

西中学校3年 澤田 隼翔

(評) あまり悩む様子もなく、こういう風に打ち明けられると、聞かされている方も何か楽しくなって深刻さがまるでない。理系嫌いだけれど工業系に進む人はたくさんいて、格好良い車をデザインしたりするのだろう。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 コツコツと私の道が決まってく

稲枝中学校1年 石田 琉莉

(評) 半分以上自分の意志とは異なるところで進路が決まってゆくという事を思い知らされている。しかも、コツコツとだから、否定のしようもない。これではいけないという気持ちを一句にする余裕がある。頼もしい。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 朝起きて母の音がする良い朝だ

稲枝中学校1年 元持 美月

(評) 素直に読めば母は母だろうが、ひねくれ者の私はそのように読むのが嫌いだ。母のいない人に対する配慮がない、とも言わない。ここでは、母のように優しいものの声の比喻ととりたい。実験からの創作でかまわない。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 小学校思い出がまだ咲いている

南中学校3年 中清水 初奈

(評) 思い出が、咲いている、のは面白い。まだ咲いているのだから、そのうちしおれて枯れると思つていようだが、そうでもない。おもいきり年老いても小学校の中学校のその後の思い出はずっと咲いている。いい思い出をいっぱい力ゴにつめていってほしい。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

佳作 三連休遊ぶ私は受験生

西中学校3年 北村 莉乃

佳作 先輩と初の金賞最高だ

鳥居本中学校1年 岸 こなつ

佳作 フルートを吹くときなぜか音出ない

鳥居本中学校1年 畑 実里

佳作 会えるかな足どり軽くいつてきます

西中学校3年 前川 愛佳

佳作 馬鹿言って笑みが溢れる帰り道

鳥居本中学校3年 後藤 咲良

入選 受験生そろそろピンチ自覚もて

西中学校3年 村田 大和

入選 むなしいなフィルム越しの君の顔

鳥居本中学校3年 岩崎 来羽

入選 挨拶をしても返さぬ大人達

西中学校2年 前川 将輝

入選 休日が風のように去っていく

西中学校2年 鳥越 楓

入選 冬服が相談し合う帰り道

西中学校2年 杉本 ちひろ

入選 テスト明け三連休は用事だけ

西中学校2年 小栗 日向花

入 選 好 き な ん よ ほ の か に 香 る 秋 風 が

鳥居本中学校3年 小山穂乃香



【総評】

たくさんのお応募ありがとうございます。

寄せてくださった川柳の中から今回も、楽しい句、頼もしい句、ユーモア溢れる句、心に残る句を選びました。よい句がたくさんありすぎて困りました。日常の景色、会話などに気をとめてくださると、それだけでもおもしろい句がうまれます。

アメリカの大谷選手のプローブは、もう着きましたか。彼は子ども頃からの夢を追いかけて今日にいたっています。

川柳は夢の世界を代弁してくれる言葉です。夢をたくさんもって、川柳で表してください。

夏休みには、「夏休み文芸ワークショップ」を開催しています。気楽に川柳の作り方を勉強しませんか。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

